

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和6年11月18日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員が作成した事業所理念に基き、愛情を持ち共に過ごす。ふれあい、やすらぎ、やる気を引き出し健康で過ごしていただけるように取り組んでいます。
・日常生活の中で想いに寄り添い、タッチケアや傾聴し一人ひとりの希望を把握し、散歩・ペダル運動・裁縫・編み物・ぬり絵等を楽しんでいただき、生き生きとした笑顔が見られます。
・季節の移り変わりを感じていただく行事を実施し、敷地内の畑で野菜作り、収穫をしてみんなで味わい、楽しんでいただいています。
・法人の秋祭りを開催し、保育園児の踊りや地域のボランティア団体の歌や踊りを楽しみました。また、知人の方や家族と触れ合うことができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人本部、特別養護老人ホーム、デイサービスが併設されている敷地内に立地しており、利用者の健康管理を含め日常的な連携が図られている。毎年度設定する事業所目標等について、定期的に評価見直しを行い、理念の共有に努めている。内科の定期的な訪問診療が行われ、法人看護師による利用者の日々の健康管理も行われている。家族の希望に沿って看取りにも取り組んでいる。コロナ、インフルエンザの流行により家族等との面会が窓越しに制限されている状況にある中であっても、法人秋祭りには地域の保育園児やボランティアの方々との交流や北上翔南高校生の鬼剣舞慰問が行われている。ドライブ等の外出の機会が少ない現状にあるが、運動歩行器の導入による運動不足解消やガーデンスイーツとして、屋外でのひと時を楽しめるよう職員による提案、工夫による改善にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した事業所理念を、目に触れる場所に掲示し共有している。愛情を持ち共に過ごす、ふれあい、安らぎ、やる気を引き出し健康で過ごせるよう支援することを心がけている。	事業所理念は、職員で見直しを行い共有されている。3ヵ月毎に開催される法人のCS向上委員会において、理念に基づいた事業所ごとの年度目標について評価、検討を行いながら、利用者に寄り添い、意向に沿った、きめ細かな介護サービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年から再開された法人の秋まつりでボランティア団体や地元の保育園児の歌や踊りを楽しむことができた。利用者、家族、知人の方との交流ができた。	今年度も法人の秋祭りが開かれ、家族、地域の方々も参加し、キッチンカーによる飲食や地元の保育園児やボランティアの方々による歌謡や踊りを楽しみ交流した。デイサービス事業所に慰問があった北上翔南高校生による鬼剣舞を鑑賞し、法人事業である「穂のカフェ」では、地域の方々に事業所の取組みを紹介した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族について、相談があったときに、認知症の方の思いを受け止める等、対応について助言している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者状況や行事等の活動について報告し、意見をいただき、支援に活かしている。	夜間を想定した防災訓練の継続の意見があり、今年度実施することとしている。特養施設と合同で実施した運営推進会議において、前年度実施した法人内他事業所利用者の満足度調査の結果が紹介され、今後の事業所運営の参考として、当事業所でも同様な調査の実施を検討したいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の保健福祉センター職員が、運営推進委員として参加している。地域包括支援センターと情報交換をしている。2か月に一回介護相談員が来所している。	運営推進会議に委員として担当者が出席し、各種情報や助言を受けているほか、町の認知症初期集中支援チームに所長が委員として参加している。介護相談員が定期的に来訪し、利用者からの相談を受けている。また、地域包括支援センターの職員とは利用者の状況などについて、随時情報交換している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に一回開催し、日常の支援について検討会を行っている。職員間で共有している。	本部主催の身体拘束廃止委員会に職員が参加し、その結果を職員に周知して、趣旨の徹底を図っている。特に利用者への強い口調や声のトーンなどで気になる際には、その都度声掛けしている。身体拘束の事例はなく、玄関の施錠も夜間のみである。離床センサーを5名使用しているほか、居室の戸に鈴を付け部屋の出入りを確認できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について社内研修会を開催し、日常の支援について言動に気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、社内研修を開催し、制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に不安な点や疑問点を伺い、解りやすく説明し同意を得ている。利用料金や改定事項の際は文書で通知し、理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際に、意見や要望を伺い日常生活に取り入れている。利用者とのコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いをくみ取るよう、支援している。	家族には毎月居室担当から生活状況等のお知らせを送付している。また、面会や日用品の持ち込み、通院付き添いで来所した際にも利用者の状況を説明し、家族から要望等も伺っている。服薬管理や口腔ケア、散歩、運動等の実施、お手伝いの参加などの要望の声がある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望を聞く話し合いや、連絡ノートを活用して意見交換をして対応している。	職員会議や日常の申し送りで利用者の状態の変化を共有している。職員からの提案は、介助用具の導入や夜間のポータブル便器の設置、寝具更新のほか、園庭で花見を楽しめるタープテントの購入、運動不足解消のための「座って簡単ペダル運動器」の導入など、利用者支援に関連するものが出され、一つずつ具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心と責任感を持ち、働き甲斐のある職場環境づくりに努めている。資格取得制度を活用して、自己の目標達成に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会を活用し、知識や技術等を共有している。職員個々の能力について、指導やアドバイスを行い、自信を持って働けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を図り、情報交換をしながら支援につなげている。また、職員の意識向上につながっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者よりホームでの生活について要望等を取り入れ、安心して過ごしていただけるようにしている。思いに寄り添い傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な点について話を伺い、理解を深めている。来訪時や電話等で近況を伝えてお互いの関係づくりに努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の要望を把握し、必要なサービスを提供できるようにしている。訪問歯科診療のサービスを利用した方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLを把握し、有する能力に応じて役割・お手伝いをして共に過ごしている。感謝の言葉を掛け合い、その人らしさを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や毎月のお便りで様子を伝えたり、面会時には利用者様の必要に応じ側に付き添い会話していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の近所や親戚、同級生などの面会があり、会話が弾み活き活きとした表情が見られた。なじみの方から電話があったときは取り次いで会話をしている。	感染対策として、面会は窓越しとしている。孫、ひ孫も含め家族や近所の方などが面会に来たり、同級生からの電話に楽しそうに話している方もいる。家族からのお菓子、果物、野菜などの差入れもある。家族と温泉入浴を楽しまれたり、外食を楽しんで来る方もいる。定期的に訪問する理髪業者の方とも名前を覚えてもらい、馴染みの存在となっている。事業所傍の道路が金ヶ崎マラソンのコースになっており、毎年沿道で応援に出掛け、選手から励ましの声をもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいよう、職員が話題の提供をする等コミュニケーションが取れる工夫をしている。テーブル席の配置に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も利用者家族との情報交換や要望相談に応じている。また、逝去された方の葬儀に参列させていただいている。退居後に相談があった場合に対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活や他者交流、表情、会話などの様子観察を行い、本人の意思に沿うように職員会議などで情報共有している。	利用者全員と言葉でのコミュニケーションがとれている。日々の関りの中で思いや意向の把握に努めており、食事後の茶わん拭き、床のモップ掛け、タオル干し等の手伝いを希望されたり、ジグソーパズルやドリルなどの趣味の活動、干し柿づくりやミズキ団子飾り、ちぎり絵や干支の飾りつけの活動なども、一人ひとりの意向に添って支援している。外出を希望される方には家族の協力をお願いしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や趣味等を聞き、情報を共有し支援に役立てている。入浴時には利用者との話が弾むことがある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との会話の中から裁縫・編みものの道具を提供して、それぞれ過ごされている。日々の健康チェックや様子観察を行い、状態の把握に努力している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は本人、家族の意向を大切にしている。利用者担当を中心に職員間で対象利用者の課題や目標について話し合いを行い、介護計画を作成している。	計画作成担当、居室担当者が主となってモニタリングし、本人や家族の意向を確認して、介護計画案を作成し職員全員で確認している。具体的支援内容や、関り方等の配慮すべき点などについても、日々の申し送りで共有し実践に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で変化があった場合、こまめに記録し、申し送り等、職員間で情報共有し、支援計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のおたよりの中で状況報告をし、必要に応じて電話で連絡している。緊急時の通院対応する等、家族様と連絡・話し合いをしながら支援している。また、看取り支援を行っている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館からの配本サービスを利用する際、リクエストなどもし利用者様が好む本をお願いし楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居者9名中8名が、町内の診療所の月二回の訪問診療を受けている。法人の看護師や処方薬の配達に薬剤師の訪問もあり、医療連携体制は十分に確保されている。	利用者8人が月2回、法人内の特養施設嘱託医師による訪問診療を利用している。訪問診療時には法人看護師も来所している。1人は家族の付き添いでかかりつけ医に定期的に受診している。処方薬は薬局薬剤師から個別分包して届けてもらっている。体調等の変化がある際は、随時法人の看護師に相談している。訪問歯科診療もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師に個々の利用者の健康状態を報告、相談している。体調不良や急変時には対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、後も利用者家族の情報交換や要望相談に応じている。また、入院先の医療機関に生活情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化及び終末期の説明を入居時に行っている。また看取り時に訪問診療の医師より家族等に説明を行い、同意を得ており、ガイドラインに沿ってケアを行っている。	重度化、看取り期に対応する指針を作成しており、昨年度1人、本年度1人について、家族の意向を確認し、ガイドラインを共有しながら看取りを実施した。異動で看取りの経験がない職員もあり、不安を訴える職員には、所長や法人の看護師が適宜アドバイスを行い、看取り後は対応した職員のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員による救命講習を行っている。また、事故発生時の対応を分りやすく作成している。		

事業所名：グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災避難訓練を隣接の法人と合同で行っている。訓練終了後に課題について話し合いを行っている。夜間想定火災避難を計画している。	訓練実施後の消防署員から、職員間でよく声を掛け合って対応できたとの講評があった。運営推進委員からも夜間想定訓練の実施を求められており、今年度内の訓練に取り入れることとしている。地域住民等による災害時の協力体制は未整備である。ハザードマップでは自然災害の対象地域にはないが、自家発電装置、カセットコンロ、3日分程度の食糧を備蓄している。なお、本部施設は、地域の福祉避難所に指定されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活や日常のコミュニケーションから性格を理解し、一人ひとりに合わせた声掛けや尊重した対応を心がけている。	入居の際に、法人広報誌などへの写真掲載について同意をいただいている。利用者、家族等個人に関わる情報は紙媒体、パソコンで適切に管理している。居室入口には個人名や花の名前を掲示したり、暖簾を掛けてプライバシーの確保に努めている。入浴や排泄時に異性による介助を希望されない場合には、職員を代えて心情に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で表情や思いを確認しながら、意思決定できるよう声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、居室で休んでいたたり、希望により洗濯ものたたみや茶碗拭き等を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	蒸しタオルやブラシ・髭剃りを手渡して、自分で身だしなみを整えるところに行っていたりしている。必要に応じて声掛け、介助している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節の献立は利用者のリクエストを取り入れている。食後の片づけを職員と一緒にやっている。	日々の献立は、当日勤務の職員が利用者の希望や食材を確認して決め、職員が調理している。食材はチルド品を発注したり、近所のスーパーで買い物に出て調達しているほか、敷地内の畑で育てた野菜や家族から差入れの野菜を活用して提供し喜ばれている。おやつには、畑で作ったさつま芋を利用したり、蒸しパンやホットケーキなど、天気の良い日には屋外で頂いている。敬老会、クリスマス、年越し等の季節行事の際も利用者から希望を聞いて手作りのメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一回、管理栄養士が来訪し助言・指導をいただいている。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物をこまめに提供している。季節の食材を使った食事を提供し、食事量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で義歯洗浄できる方にはブラシを手渡し見守りをしている。難しい方には洗浄の介助や歯磨きの介助を行っている。本人の力に応じた介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を確認しながら声掛けや誘導を行っている。さりげなく強制はしないように、本人のやる気を尊重しながら介助している。	排泄チェック表により、素振りをみて案内、誘導している。失敗した場合は耳元で声掛けし、心情に配慮しながらトイレに誘導している。入居時にオムツを使用していた方が個別の声掛け誘導により、リハビリパンツ使用に改善された方もいる。布パンツ2名、リハパンツにパット併用が7名である。夜間に1名がポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションで体を動かしたり、オリーブオイルを料理に使用する等、予防している。必要に応じて、下剤でコントロールしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に配慮しながら気持ちよく入浴できるようにしている。嫌がる方には無理強いせず、声掛けや時間変更などして対応している。季節により菖蒲湯、ゆず湯に入りよるこんでいただいている。また、会話が弾むこともある。	週3回午後に入浴している。1番風呂を希望される方、長湯を希望され最後の入浴を希望する方、別の日に入浴したい方など適宜希望に添うようにしている。季節に応じ、ゆず湯、菖蒲湯等も提供している。職員との1対1で会話を楽しむひと時ともなっている。家族の希望で温泉入浴に出掛けられる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときは傾聴や、タッチケア等寄り添い、対応している。居室に馴染みの物を置き、安らかに過ごしていただける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、複数の職員でダブルチェック、トリプルチェックを行っている。薬を飲みこむまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや食器拭き等出来る範囲で行っていたいっている。また食事の挨拶係など、なるべく多くの方に役割を担っていただくようにしている。利用者の希望により、野菜の収穫、草取り、裁縫、編み物などを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に寄り添い、周辺の散歩や畑の手入れをしている。家族からの要望で、お墓参りに出かけた方もいる。	日常的には施設周辺の散策、畑の草取り、野菜の収穫作業を行っている。家族の付き添いでお墓参りに出掛けられる方がいる。施設車両によるドライブの年間計画を立てているが、コロナ等の感染対策等でほとんど実施できずにいる。	地域との接点や関りの機会が少ないようですので、少人数、短時間でのドライブなど外出の提供について検討されることを期待します。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との了解のもと少額を所持している方もいる。床屋代を支払うなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作成を支援している。家族からも年賀状が届き、楽しみの一つになっている。家族や知人からの電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは季節感のある飾りつけをしたり、利用者と作った作品を飾っている。まぶしくないよう配慮しているが、申し出があったときは照明の光度を下げている。音量・室温に配慮している。	共用スペースは、天窗や大型の引き戸からの光と、クリーム色の壁で、室内は明るく、広々としたロビーには、食用テーブル、応接セット、ソファがあり、テレビや趣味などで、利用者はくつろいでいる。温度は、床暖、エアコン、加湿器で管理され、夏場は扇風機も使用している。畳敷きの小上がりの和室スペース、ソファ、一人掛けチェアなどが配置されている。季節の花を生け花で飾ったり、クリスマスや桃の節句など装飾を作成し、季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは窓辺のソファに座ったり、隣の利用者と話したりと穏やかに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持ってきていただき、居心地の良い居室になるようにしている。利用者が塗ったぬり絵を貼り、好みに合った居室になるようにしている。	室温は、床暖房とエアコンで調整し、夏は、すだれや扇風機のほか、ロビーからの冷気を入れている。ベッド、クローゼット、洗面台が設置され、家族写真、衣装ケース、テレビ、ラジオ、イス、化粧品、髭剃り、ぬいぐるみ、裁縫箱などが持ち込まれ、居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内や居室の名前を、利用者の目線に合わせて表示している。廊下に必要のないものを置かないように、安全に配慮している。		